

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

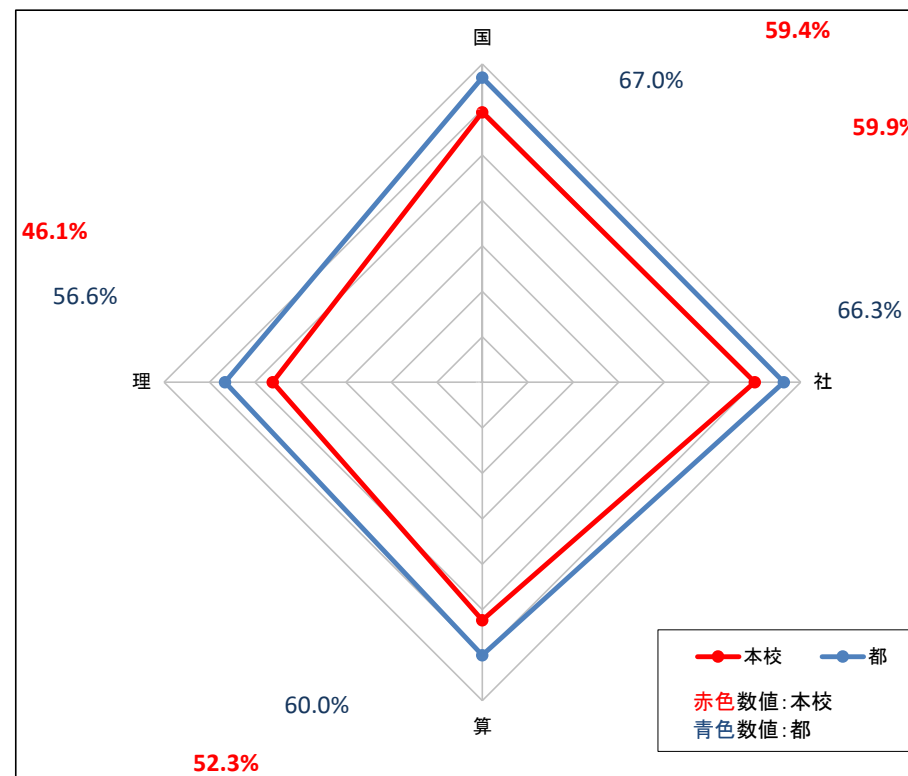
東小松川小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	54.4%	65.4%	60.6%	58.3%	59.4%
都との差	-11.5	-5.5	-6.5	-7.6	-7.6

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	55.9%	58.9%	67.2%	59.9%
都との差	-7.2	-7.6	-2.6	-6.4

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	37.3%	58.7%	59.5%	52.3%
都との差	-9.1	-6.5	-8.3	-7.7

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	45.4%	52.2%	43.7%	46.1%
都との差	-7.5	-14.2	-11.3	-10.5



《都との比較にみる本校の状況》

各教科どの項目も都の平均を下回っており、理科の10.7ポイントをはじめ、都の平均値との隔たりがかなり大きい。
観点別にみると、社会の知識・理解が5ポイント以内の差となっている以外は、どの観点についても都の平均値を大きく下回っている。特に国語の思考・判断・表現(話す・聞く)、理科の技能、知識・理解については10ポイント以上も差が開いているので、早急に改善する必要があるといえる。

《授業改善のポイント》

各教科とも思考・判断・表現に課題があるといえる。そのため、授業を進めていく際に、児童が自分の力で考えたり、周りとの関わりによって考えを深めたりできる活動を取り入れる。ヒントを与えたり、グループワークをしたりすることによって自分の考えを深めたり、広げたりしていく。知識・理解の向上においては各学年の定着していない既習事項を、東京ベーシックドリルを活用し取り組んでいく。児童一人一人の学習の定着を図るために、補習を通して指導していく。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の協力を呼び掛けていく。時間の確保だけでなく集中できる環境づくりについても励行する。それとともに児童の実態や学習内容等を、保護者会などを通じて情報を発信していく。